

平成24年度大阪大谷大学博物館秋季特別展 報告

子どもの風景－教科書でたどる「学び」と「遊び」の今むかし－

教育学部秋季特別展実行委員

岡崎 裕子

墨村 充子

小谷 卓也



今年度の秋季特別展は、教育学部による企画のもと2012年10月1日(月)から11月23日(金)まで開催され、たいへん多くの方々にご来場いただきました。

今回のテーマは「子どもの風景－教科書でたどる『学び』と『遊び』の今むかし」。さまざまな展示品をとおして昔の子ども「学び」を知り、今、さらには未来の子ども「学び」を考えてほしいと企画しました。同時に、将来教員をめざす学生の皆さんに昔の教科書にふれる学びの場を提供することも目的としました。

展示は、江戸期の「往来物」から始まり、寺子屋で使われていた文机・算盤・筆、寺子屋での学びの様子が描かれた錦絵(複製)等へと展開しました。明治期の『絵入智慧の環』『小学入門』『読書入門』や掛図(複製)、加えて昭和初期までの国定教科書の変遷、当時の教材教具、石盤・石筆などの筆記用具等も展示しました。

幼児の「遊び」は「学び」の始まりです。『二十遊嬉の図』(複製)や戦前戦後の絵本、明治・大正期の写真や錦絵等で当時の子どもの様子を紹介しました。

現在使われている教科書の展示コーナーでは、小学校の国語・算数の教科書に加え、障害のある児童生徒のための教科書の一部(拡大教科書や点字教科書、DAISY教科書等)も展示説明しました。

教育学部にとって博物館の企画展示は初めての試みでしたが、大阪市立愛珠幼稚園、大阪府立中央図書館(国際児童文学館)、公文教育研究会、国立教育政策研究所教育図書館、堺市立町家歴史館清学院等のご協力も得て無事開催することができました。また2012年11月17日には、大阪府立大学名誉教授の山中浩之先生をお招きし、特別展関連の博物館講座として「寺子屋では何をどう学んでいたか」についてご講演いただきました。

ご来場、ご協力いただいたすべての方々に御礼申し上げます。